

透過型の効果

植生の回復

鋼製スリットえん堤A型



梓川支川八右衛門沢 昭和52年 [長野県]

土砂が広範に移動し、スリットA型の林立式配置により、捕捉・堆積した状況。現在は河床が安定し周囲の緑化が促進されている。



平成9年撮影



土石流の樹林帯への侵入を防止し、植生も復元してきている 平成9年撮影

鋼製L型スリットえん堤

本溪流は荒廃が著しく、土砂流出が激しいことから、下流側保全対象に被害を及ぼす可能性が高く基幹砂防えん堤が計画されたが、流域内の既設砂防えん堤が満砂しているため、基幹砂防えん堤が整備されるまでの緊急対策と基幹砂防えん堤工事の安全確保を兼ねて鋼製L型スリットえん堤を設置した。



上流側



観音川(下流側)
スリット高3m、全高5m
土石流・流木対策として配置
平成13年度【福井県】



現在は植生に覆われ自然の一部になっている 小有珠川右1号の沢 1号スリットえん堤
鋼製部高6.3m 昭和54年設置 平成13年撮影[北海道]



小有珠川右1号の沢 2号スリットえん堤 鋼製部高4m 昭和54年設置 平成13年撮影[北海道]

透過型の効果

緊急対応で施工

格子形鋼製砂防えん堤



八幡川砂防えん堤 鋼製部高10.5m、全幅75m、鋼製部幅10m、水通し幅12m(113.9トン) 平成12年[広島県]



三迫川砂防えん堤 鋼製高8m、全幅58m、鋼製部幅9.6m、水通し幅12m(111.4トン) 平成10年[広島県]

鋼製L型スリットえん堤

上流で発生した土砂崩れにより河道内に土砂の天然ダムができ、次期出水時に土石流として流出する危険性が高まったため、鋼製L型スリットえん堤を緊急対応で設置した。鋼製L型スリットえん堤は、基礎コンクリートを打設しないため工期が短く緊急対策事業に有利で、自重が軽いため不透過型えん堤の堆砂域内にも設置が可能である。



藤川谷川(堆砂域に緊急設置) スリット高3m、全高5m 平成10年度[徳島県]